

A black and white photograph of a grand, high-ceilinged hall, likely a museum or gallery. The space is filled with people, mostly in business attire, engaged in conversations. In the center, a woman in a light-colored jacket stands by a large white column, holding up a smartphone to take a picture. To her left, a group of people is gathered around a small round table with drinks. To her right, another group is looking at a display board or information table. The architecture features large arched windows and ornate wall sconces. The overall atmosphere is professional and social.

国際舞台芸術  
ミーティング  
in 横浜 2013  
開催報告書

**TPAM**

---

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013  
(TPAM in Yokohama 2013) 開催報告書

- 2 はじめに
- 3 開催概要
- 4 参加システム
- 5 統計
  
- 7 ショーイング・プログラム
  - 8 TPAM ディレクション
  - 16 インターナショナル・ショーケース
  - 24 TPAM ディレクション Plus
  - 27 TPAM ショーケース
  
- 29 ネットワーキング・プログラム
  - 30 TPAM エクスチェンジ
  - 36 ディスカッション
  - 40 アーティスト・サロン / Petit coin de France
  - 41 提携事業 舞台芸術制作者オープンネットワーク設立イベント
  
- 43 パブリシティの記録

「マーケット」から「ミーティング」に名称を変えるとともに、開催地を東京から横浜に移して、3年目を迎えた TPAM in Yokohama 2013。ネットワーク形成に重点を置いたプログラムと、未来を担う制作者に向けた「TPAM ディレクション」や、「TPAM ショーケース」、「インターナショナル・ショーケース」などの公演プログラムを両輪に実施してきた本催事は、今回、さまざまな形でその成果が現れました。

舞台芸術においてアジアでは最大規模、日本では唯一の国際的なプラットフォームである TPAM が、変わりゆく世界と共に変化していく舞台芸術に対してどのように機能し、発展すべきかを参加者の皆さんと共に考え得るよう、ここに報告します。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局

□ 主催

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会  
(国際交流基金、公益財団法人神奈川芸術文化財団、  
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC – 国際舞台芸術交流センター)

□ 事務局

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局 (国際舞台芸術交流センター内)

□ 会期

2013 年 2 月 9 日 (土) ~ 2 月 17 日 (日)

□ 会場

ヨコハマ創造都市センター (YCC)、KAAT 神奈川芸術劇場、  
BankART Studio NYK、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、他

□ 協力

BankART1929、象の鼻テラス、ST スポット、急な坂スタジオ、  
有限会社ネビュラエクストラサポート (Next)、黄金町エリアマネジメントセンター、  
株式会社アイ・ティー・シー・エー (三本コーヒーグループ)

□ 後援

横浜市、神奈川県

□ 助成

公益財団法人ポーラ美術振興財団

□ 協賛

株式会社野毛印刷社、株式会社横浜ビール

□ 提携事業

舞台芸術制作者オープンネットワーク設立イベント

## 参加システム

---

### □ ビジター登録

全会期 ¥9,000 (早期割引 ¥7,500)

1日 ¥3,500 (2月13日～17日分のみ)

TPAMパス1枚発行

### □ TPAM ショーケース登録

登録料 ¥30,000

TPAMパス2枚付属

### □ TPAM エクスチェンジ登録

登録料 ¥50,000 (早期割引 ¥40,000)

TPAMパス3枚付属

### □ チケット販売/入場無料

TPAM ディレクション『エキストラ・カーテンコール』『ぼ<sup>ま</sup>や<sup>ぬ</sup>っ<sup>と</sup>す<sup>け</sup>る』『<sup>ハンバ</sup>1/2PA ナイツ!』

インターナショナル・ショーケース (“Playing with Cities” は入場無料)

TPAM ディレクション Plus (DANCE TRUCK PROJECT は入場無料)

TPAM ショーケース

ディスカッション「『アート』で『世界』を映す場所」(入場無料)

舞台芸術制作者オープンネットワーク設立イベント

---

□ オフィシャルプログラム来場者累計数：6,536名

※2月9日710名、10日710名、11日710名、12日710名、13日726名、14日714名、15日766名、16日764名、17日726名

□ 海外34カ国から139名が参加

□ TPAMパス以外のチケットによる入場者数：484名

※TPAMディレクション、インターナショナル・ショーケース、舞台芸術制作者オープンネットワーク設立イベント

□ TPAMディレクションPlus動員数：7,133名

※回答のあった団体分と事務局の試算による

□ TPAMショーケース動員数：9,954名

※回答のあった団体分と事務局の試算による

□ 総来場者数累計：24,107名

※ボランティアスタッフ、オープングレセプション、ウェルカムパーティ、クロージングパーティ参加者含まず

□ 出展参加者数：112名

TPAMエクスチェンジ：24アーティスト／団体（うち5団体が海外からの参加）

※スタンド：24、映像プレゼンテーション：14、グループ・ミーティング：63コマ、スピード・ネットワーキング：222コマ

TPAMショーケース：11演目

□ 上演作品・実施プログラム総数：55プログラム

□ 上演・実施回実数：161回



ショーイング・プログラム





## TPAM ディレクション

---

日本の舞台芸術シーンの更新をリードする制作者を複数選任し、プログラミングを委嘱して実施するショーイング・プログラム。

今日の舞台芸術の動向、社会、環境に対峙し、制作者独自の視点から導き出したコンセプトをもとに、舞台芸術そのものを問い直し、国際舞台芸術ミーティング in 横浜に参加するプロフェッショナルと共に考え、アイデアを共有し、議論するユニークで実験的な試みである。

今回は、ディレクターに小倉由佳子氏（アイホール）、大平勝弘氏（ST スポット）、宮永琢生氏（ままごと／ZuQnZ）を迎え、それぞれの立ち位置からとらえた日本の舞台芸術シーンの切り口をショーイング・プログラムとして紹介した。

今年でTPAM ディレクションへの参加が3回目となる小倉氏は「雑食化による協働」をキーワードに、美術、ダンス、演劇の分野から活動を展開中のアーティストと作業し、芸術が社会において多様性を許容し得る包容力と、一方で「芸術」という言葉が立ち入り難い敷居を仮想させてしまうという2つの相反する側面を浮き彫りにし、「ジャンル」などの言葉に表象される見えない境界線に対して疑問を呈するかたちとなった。2回目の参加となる大平氏は他者とのコミュニケーションについて、公演のみならず、インスタレーションを含めたアート・フォームを通じて異なる角度からアプローチする企画を実施。他者との交流に関する姿勢を共有しながらも、それぞれの作品の個性が際立つプログラムとなった。今回新しくディレクターとなった宮永氏はこの機会を通じて、これまで仕事をしたことがないアーティストと共同で創作することに挑戦し、制作者という立場から他者（アーティスト）との関係性について自ら検証し、観客と作品自体が交わることによって成立する演劇行為そのものにフォーカスをあわせる新作公演を実現した。

昨年度の反省を受けてコンセプトをより掘り下げるために、各ディレクターが1回ずつアフタートークを行った。しかし、他のプログラムとの兼ね合いもあり、会場の参加者も含めて議論する時間が限られてしまったため、次回は参加者との対話の機会を十分に持てるような構成にし、TPAM ディレクションが目指す、舞台芸術の可能性を共に考え、議論する場となるようデザインしていきたい。

## 演目一覧

## 小倉由佳子ディレクション

□ ナデガタ インスタント パーティー (中崎透 + 山城大督 + 野田智子) 『エキストラ・カーテンコール』

2月17日(日) 17:00

KAAT 神奈川芸術劇場<ホール>

□ きたまり / KIKIKIKIKIKI 『戯舞』

2月15日(金) 16:30 | 16日(土) 17:00

KAAT 神奈川芸術劇場<中スタジオ>

□ 劇団子供鉦人 『Where is crocodile?』

2月15日(金) 16:30 | 16日(土) 17:00

KAAT 神奈川芸術劇場<小スタジオ>

## 大平勝弘ディレクション

□ 大橋可也 『WAGASHI — my master, my words, my death, my will』

2月15日(金) 19:00 | 16日(土) 14:00

KAAT 神奈川芸術劇場<大スタジオ>

□ 村川拓也 『ツァイトゲーバー』

2月15日(金) 19:00 | 16日(土) 14:00

KAAT 神奈川芸術劇場<大スタジオ>

□ 篠田千明 『ぼ<sup>ま</sup>や<sup>ぬ</sup>っ<sup>け</sup>と<sup>す</sup>る』

2月15日(金) 14:00/14:30/15:00/15:30

2月16日(土) 11:30/12:00/12:30/13:00

KAAT 神奈川芸術劇場 地下スペース

## 宮永琢生ディレクション

□ 杉原邦生 『<sup>ハンパ</sup>½PA ナイツ!』

2月13日(水) 20:30 | 14日(木) 16:00

KAAT 神奈川芸術劇場<ホール>

## 小倉由佳子ディレクション

今回の TPAM ディレクションにおいて、私のディレクションでは、「ダンス」「演劇」「美術」という既存のジャンルを消化しつつ、ユニークなアプローチで創作を重ねているアーティストの三作品を紹介しました。彼らの試行によって、常に更新が求められる舞台芸術に、雑食たる多種多様な材料、ツールが持ち込まれ、攪拌する場になればと考えました。

振付家・きたまり (KIKIKIKIKIKI) は、私がプロデュースするアイホール (伊丹市立演劇ホール) と関西を拠点に活動する新鋭アーティストとの共同製作事業 “Take a chance project” で発表した作品を大幅にリメイクし、上演しました。日本の民俗芸能 (念仏踊りや神楽等) を大胆に取り込み、コミカルなきたまり流「現代の民俗芸能」を模索しました。

大阪を拠点に活動する、劇団子供鉦人は、『Where is crocodile?』を全編英語で上演しました。仏語も可能で、公演地の言語で上演するというのがひとつの特色となっている演目です。独自のやり方で海外公演を敢行していた彼らが、ベルギーやフランスのライブハウスや小さな劇場で、現地のミュージシャンと一緒に公演して来たそのスタイルを含め、紹介出来ればと考えました。観客の熱気がダイレクトに反映される舞台は、小さな空間を濃密なものとしていました。

ナデガタ インスタント パーティーの作品『エキストラ・カーテンコール』は、1,200 席以上の KAAT ホールで〈演劇『かちかち山〜 Win Win Mountain 〜』をたった 12 名の観客のために上演する〉という試みでした。通常の観客席であるところには、事前公募したエキストラと囚らずもエキストラにされてしまった人達が入り交じり、「観客参加型の楽しい体験を提供する」という形式をとりながらも、痛烈な舞台芸術への批評的なコンセプトの提示でもありました。

2011 年～2013 年の 3 会期に渡ってディレクションを担当し、KAAT 神奈川芸術劇場というできたばかりの可能性いっぱい劇場を存分に使わせていただきました。アトリウムから、中小スタジオ、大スタジオ、ホールを使って、それらの空間と作品をどうなじませ、互いに活かせるかをひとつのポイントとして、アーティストと一作品、一作品つくってきました。ひとつの劇場を足場に仕事をしている私にとっては、いつもの勝手知ったる空間とは違い、新鮮なチャレンジをすることができました。

また、常に迷いながら、最後まで反省が残るのが、字幕等のバイリンガル対応でした。ダンスなどの身体表現に重きをおいたものでも、言葉を使用し、そのうえ、演出的に即興、その場で起きているようにみせたい場合が多く、ビビッドさや雰囲気を見失わずにどう上演するか、毎回悩みました。「ある言語が話されているある地域」について公演をする、海外公演とも違いました。さまざまな国からやって来、多様なバックボーンの人たちが交じる観客席に対して、ただ英語を共通語として準備することだけでいいのだろうかという問いもありつつ、各アーティストと作品に応じて試行錯誤しながら上演しました。が、簡単なものではなく、課題が残ったと感じています。

この TPAM ディレクションは、国内外のプロデューサーやプレゼンターの厳しい目に晒されるなかで、自分のディレクションを組み立て、自分たちとは違う言語的・文化的背景の観客にどうみせるかを考える本当に良い機会でした。日本のディレクター、またアーティストにとって、活動の幅を広げるプラットフォームであることはもちろん、自分たちの表現について、あらためて問い直させられる貴重な場であると思います。

(小倉由佳子、アイホール [伊丹市立演劇ホール] ディレクター)



『エキストラ・カーテンコール』



『戯舞』



『Where is crocodile?』

## 大平勝弘ディレクション

結果、3作品のプログラム（演劇、ダンス、仮設展示）、、、妙なバランス感覚が働いたのか？ 今回のプログラムでは「表現における界面と共有」をテーマとし、今、舞台に何をもち込むか、何を他者と共有できるかということを軸に、パフォーマンスアートの可能性を探りました。

今回のプログラムに参加頂いた3人の演出家、振付家に共通することとして「悲しみ」「不安定感」「所在のなさ」のようなものを感じています。それらが作品創造の原動力でもあるに違いないと。彼らはマイノリティーとしての実感をコミュニケーションの方法の一つとして転換し、積極的に他者と関わり、様々な意味において日常における足場の不安定感を、作品という形に定着させていきました。

「これがいいのだ」と誰かに選択させられていたことが大抵間違っている近年、少しでも「これでいいのだ」と思える瞬間が実感として湧いてくるような作品を展開し、最終的には圧倒的な自己肯定により前に進むということではかかないと考えました。

TPAMの1プログラムを担うことの意味について、舞台芸術の可能性の提示という大きな命題をより純化させ公演として成立させる。このような立場において制作者に何が出来るのか。どこまでがその仕事の範疇なのか。短期間に複数の要素を組合せていくため、アーティストの距離、作品との距離をどう図るかとても難しいものがありました。踏み込めなかった部分について物理的、意図的にそうした部分もあれば、もう一步丁寧にそのパッケージング作業に関わるべきだったと、今思うところはありますが、ひとまず本プログラムに参加頂いたアーティストの皆様、また進行に丁寧に寄り添って頂いたTPAM事務局、KAATスタッフの皆様へ感謝致します。

(大平勝弘、ST スポット 館長)



『WAGASHI — my master, my words, my death, my will』



『ツァイトゲーバー』



『ぼ<sup>ま</sup>や<sup>め</sup>っ<sup>け</sup>とする』

## 宮永琢生ディレクション

いきなり個人的な話ですが・・・。

ここ数年、自身の活動に疑問を感じるようになっていました。

自分の仕事とは何なのか。

自分はアーティストと共に何が出来るのか。

自分がアーティストに対して出来る事は何なのか。

前置きが長くなりましたが、上記のような状況の中で、TPAM ディレクションにディレクターとして参加させてもらった事は、自身の中で非常に大きな意味を持つ活動となりました。

今回、演出家・杉原邦生氏と創作した『<sup>ハンパ</sup>1/2PA ナイツ!?'』では、演劇と音楽が持つ新しい力を生み出し、それぞれのジャンルへの《希望》を立ち上げるという挑戦でした。

KAATのホールという、クリエイションにおいて「自由」と「不自由」が同居した「空間＝遊び場」での創作は非常に刺激的で、参加してくれた出演者、スタッフとの共同創作において生まれた本作で《希望》の欠片のようなものは掴めた気がします。

ただ、作品として昇華出来なかった部分は多々あり、特に当初の目標だった《想像》と《創造》の交信を作品に取り込むという創作欲求に対して、ディレクターとして戸惑いと躊躇が生まれてしまった事は大きな反省点です。

\*

2013年4月8日。私はいま、自身のカンパニー（ままごと）の一員として瀬戸内国際芸術祭 2013に参加するため香川県小豆島に滞在しています。

東京とは時間の流れが違うこの場所で、様々なジャンルのアーティストと交流しながら、作品が生まれる場所と人、そして時間について考えています。

TPAMから2ヶ月が経ち、杉原氏との創作、そしてこの小豆島での滞在を通して、見えた一つの答えは《未来》でした。

私の仕事は、アーティストと創造を共にし、アーティストと共に未来を創り、アーティスト自身の未来を創造する事。

ただそれだけ。

そこに自分の未来が。演劇の未来があると信じて。

ただそれだけを。

(宮永琢生、ままごと／ZuQnz)



ハンパ  
『 $\frac{1}{2}$ PA ナイツ!』



海外の公共／民間の芸術文化団体、見本市、フェスティバルなどのプラットフォームと協力し、国際的に活動の場を広げているアーティストや作品を紹介するプログラム。今回は日本のアーティストとの共同製作作品や、これまでのネットワークから発展するかたちで実現した公演など、より双方向的なコミュニケーションを通じて企画されたプロジェクトが複数ラインナップされたことが、特徴的であった。

本プログラムは、国際舞台芸術ミーティング in 横浜の中でも国際的、特にアジアのプラットフォームという位置づけにおいて、重要な役割を担っており、各協力団体が文化芸術による国際交流という視点からプログラムを企画し、参加者、すなわち各国から参加している文化芸術に関わるプロフェッショナル達と作品やコンセプトを共有し、グローバルな視点で今日の舞台芸術を見つめ直す機会となっている。

### 演目一覧

□ アイディン・テキャル × 河崎純 『db-II-bass — 音、身体、楽器』

2月12日（火）18:00

ヨコハマ創造都市センター 3F

主催：Kiki Arts Project、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

助成：公益財団法人セゾン文化財団、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

□ 青年団国際演劇交流プロジェクト 2012

フィリップ・ケーヌ企画／ヴィヴァリウム・ステュディオ 『Anamorphosis アナモルフォーシス』

2月13日（水）12:30/18:45

KAAT 神奈川芸術劇場<中スタジオ>

主催：（有）アゴラ企画、こまばアゴラ劇場、ヴィヴァリウム・ステュディオ、

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

共同製作：（有）アゴラ企画、こまばアゴラ劇場、ジュヌヴィリエ国立演劇センター、

アンスティチュ・フランセ日本、ベルリン HAU 劇場

助成：アンスティチュ・フランセ日本 - 外務・ヨーロッパ問題省レジデンスプログラム Théâtre Export

□ フォレスト・フリンジ at TPAM “Playing with Cities”

2月14日（木）18:00-22:00

15日（金）～17日（日）12:00-22:00

BankART Studio NYK 3F

主催：プリティッシュ・カウンシル、急な坂スタジオ、

ヨコハマ創造都市センター（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）、

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

協力：高知県立美術館

□ エヴァン・ウェッパバー & フランク・コックス=オコネル 『リトル・イリアッド』

2月16日(土) 16:00/17:00 | 17日(日) 13:30/14:30

ヨコハマ創造都市センター 3F

主催：EW&FCO、Antonym Productions、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

助成：Canada Council for the Arts、Ontario Arts Council

□ モー・ル・ブラデック 『Professor』

2月16日(土) 19:30

KAAT 神奈川芸術劇場<ホール>

主催：アンスティチュ・フランセ横浜、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

助成：アンスティチュ・フランセ

□ ダニエル・コック 『Q&A』

2月17日(日) 19:00

KAAT 神奈川芸術劇場<大スタジオ>

主催：タン・フクエン、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

助成：ナショナル・アーツ・カウンシル・シンガポール

アイディン・テキヤル × 河崎純

『db-II-bass — 音、身体、楽器』

本プロジェクトは、楽器を演奏する行為を身体表現として捉えたトルコのコレオグラファー、アイディン・テキヤルと、音楽が宿る源泉を演奏する身体に求めたコントラバス奏者の河崎純が、楽器と身体と音楽の関係を再検証し、新たな表現領域を探求しようとしたものである。イスタンブールと東京で1年間積み重ねた協働作業は、テキヤルの身体論的メソッドにより楽器と演奏者の制度的関係から離れてフォームを造形していくことと、そこから音楽を創っていくことの連環のプロセスであった。2012年10月のイスタンブール初演を経て日本公演。ダンス・ディシプリンによらない〈普通の身体〉の演奏者の身体はどう客観化できるのか、そもそも〈普通の身体〉とは何かを含めて、作品は複層的な様相を呈した。

(畠由紀、KiKi Arts Project プロデューサー)



青年団国際演劇交流プロジェクト 2012

フィリップ・ケーヌ企画／ヴィヴァリウム・ステュディオ

『Anamorphosis アナモルフォーシス』

青年団国際演劇交流プロジェクト『Anamorphosis アナモルフォーシス』は、演出家フィリップ・ケーヌが国内の別会場（アトリエ春風舎）で滞在制作を行い、直前に公演を実施していた中の「インターナショナル・ショーケース」参加という、今までにあまり例の無い形での公演だったかと思います。

TPAM 参加以前よりヨーロッパツアーが確定していたこともありますが、KAAT での公演は、「日本国内でヨーロッパ圏の観客と作品を共有する」「生み出した作品のツアーへの第一歩を踏み出す」ためのものだったような印象があります。

そういう意味では、TPAM 全体の「Market」から「Meeting」という趣旨とも合致していたのかもしれませんが。

フィリップ・ケーヌ自身にとっても 2 年連続での参加ということでの手応えもあったようで、何らかの形でこの継続が今後に繋がっていけばと思います。

(木元太郎、こまばアゴラ劇場／青年団 制作)



## フォレスト・フリンジ at TPAM

### “Playing with Cities”

英国のアートユニット、フォレスト・フリンジのプロデュースで“Playing with Cities (街と遊ぼう)”をテーマに、パフォーマンスや展示、日英のアーティストによるレジデンスプログラム（クリエイティブ・ラボ）を実施しました。4日間にわたって展開した本プロジェクトには、英国のパフォーミングアーティスト 10 組に加え、4名の日本人アーティストが参加し、劇場という枠組みにとられないインタラクティブなパフォーミングアート作品とインスタレーション、7作品を上演、展示しました。“Still Night”を上演したベルリン・ネバダは、上演前に横浜で滞在制作を行い、横浜の街をモチーフに横浜版の“Still Night”を完成させて上演。あわせて展開した滞在型のプロジェクト、クリエイティブ・ラボでは、日英の参加アーティストが、横浜の街と関わり、人々と出会いながら、新たな作品のアイデアを発展させ、その創作のプロセスを会場のみならず、ブログやソーシャルメディアなどのオンラインツールを使って発信しました。本プロジェクトの実施にあたり、英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルと、横浜の拠点、急な坂スタジオを運営する NPO 法人アートプラットフォームが制作面でさまざまな形で協働し、この日英のコラボレーション・プロジェクトの成功を支えました。TPAM in Yokohama に参加することで、舞台芸術のプロフェッショナルに広くプレゼンテーションできるよい機会となりました。

(ブリティッシュ・カウンシル)



エヴァン・ウェッバー & フランク・コックス=オコネル

『リトル・イリアッド』

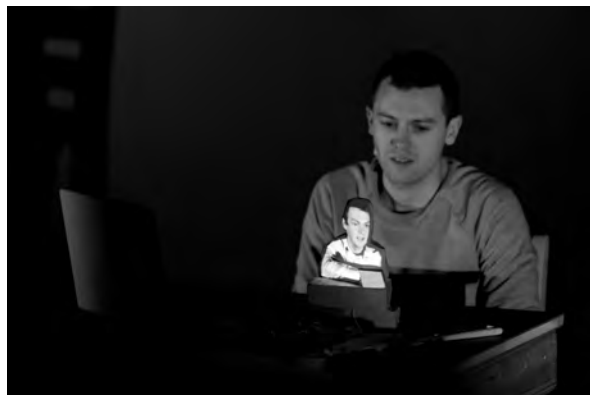
『リトル・イリアッド』の全ての局面に関して、TPAM では例外的とも言うべき助力と配慮をいただきました。技術スタッフは私たちの難しい要求に見事に応えてくれ、受付業務は円滑でした。飛行機を降りてショーを2回行なったところ、観客の集中力と熱意はまれに見るものでした。『リトル・イリアッド』は兵隊とアーティストの関係についてのパフォーマンスで、生で出演する俳優1人と、あらかじめ録画されたビデオで出演するもう1人の俳優によって演じられます。その意味で、出演者たちにとっても2通りの時間が流れていると言えますが、生で出演するほうの俳優にとっては、この作品は明らかに反復的な行為です。にも関わらず TPAM では、私たちはこの作品を初めて演じているかのように感じました。

芸術交流の場としては、TPAM への参加は、自分たちの創作言語とコラボレーション言語を見つめ直す機会になりました。文字通り「翻訳」の必要性においてもそうでしたし、観客や関係者に問われた質問を通して、私たちの背後にある文脈を全く新しい視点で考えさせられました。

ビジネスという意味でも、TPAM は、物の見方が近い人々とコネクションを作るための場として素晴らしいものでした。日本、米国、ヨーロッパの関係者と知り合い、新しい友人ができたことは、これから自分たちの作品を世界の人々ともっと共有してゆくために大いに役に立つと思います。プログラムの広がりのおかげなのか、あるいはオープンで熱意のある TPAM のスタッフのおかげなのか、しかし、その場に共にいること、そこで私たちのやっていることをやること、そこで提供されている物事の一部を担うことの中に、何か重大な、危機に瀕しているものがあるようにも感じました。

芸術に取り組む者にとって、ときに慣れ親しんだ環境から遠く離れてみるのはよいことです。ぜひまた参加したいと思っています。

(エヴァン・ウェッバー&フランク・コックス=オコネル)



### モー・ル・ブラデック

#### 『Professor』

今年で3年連続の参加となった TPAM in Yokohama で、アンスティチュ・フランセ横浜はパートナーとの協力のもと、現在の舞台芸術シーンを活気づけているフランス人アーティストたちを紹介いたしました。私どもにとって TPAM in Yokohama は、日本をはじめアジアの舞台芸術プログラマーに、フランスの新世代のアーティストを発見していただく絶好の機会であります。

フランス芸術振興会 (Onda) との協働で開催したアーティスト・サロン (Petit coin de France) では、演劇、ダンス、ヌーヴォー・シルクの分野の第一線で活躍する6組のフランス人アーティストたちと、たくさんの舞台芸術関係者との出会いや交流が実現しました。

さらに、今年の豊かな TPAM のプログラムでは、フランスからは二つの作品が上演されました。分類不可能な希有な演出家フィリップ・ケーヌによる、青年団の4人の女優のための新作『アナモルフォーシス』、そして振付家モー・ル・ブラデックによるダンス作品『Professor』。これらの公演には、舞台芸術関係者のみならず、一般の方々にも多数ご参加いただきました。

2013年の TPAM に参加したアーティストたちの作品が、パートナーであるフェスティバルや劇場の舞台で、日本のより広い観客層へ向けて紹介される日が訪れることを、心より願っております。

(レベッカ・リー、アンスティチュ・フランセ横浜 館長)

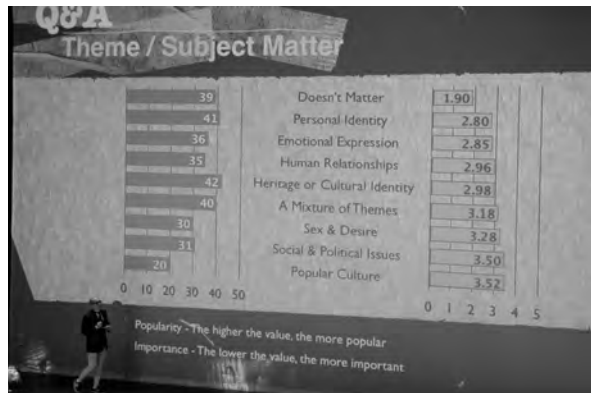


ダニエル・コック

『Q&A』

TPAM はアジアの舞台芸術のエコロジーにおいて重要な位置を占めています。国際的、国内的セレクションの両方を統合し、これだけの規模と展望を実現しているプラットフォームは世界にも多くありません。2013年のセレクションは、今までそうであったように、現在の芸術的動向、とりわけ若い世代の動向を明らかにするものになっていました。より多くのアジアの関係者を日本と世界のマーケットにつなげることを目指した TPAM のスタッフの継続的な努力のおかげで、シンガポールのアーティスト、ダニエル・コックがメインプログラムのひとつに出演することができました。好評だった 2012 年のフェスティバル/トーキョーでの日本デビューに引き続き、日本の観客にダニエル・コックの活動を伝えることができました。アート・マーケットの文脈で彼が演じるのは初めてでしたが、それが世界の観客に作品を届けるためのすばらしい機会であることが実証されました。『Q&A』の反響は好意的で、米国ツアー、ヨーロッパツアーにつながるプレゼンターたちとのつながりができました。ナショナル・アーツ・カウンシル・シンガポールの助成、そして TPAM のすばらしい有能なチームのおかげで、『Q&A』の TPAM への参加が実現しました。この試みをプロデュースした者として、今後の TPAM とのパートナーシップ、対話、機会に期待しています。

(タン・フクエン、キュレーター／ドラマトウルク／プロデューサー)





国際舞台芸術ミーティング in 横浜主催団体が主催／共催する公演や、協力・提携関係にある国内外の団体、アーティストと連携して実施する公演プログラム。先鋭的なアーティストによる作品をフルスケールで紹介すると同時に海外アーティストの招聘公演やレジデンスプログラムの成果発表、異ジャンルとのコラボレーションやサイトスペシフィックの実験的な公演、国際共同製作や若手カンパニーの公演など、それぞれのプログラムの背景にある舞台芸術の潮流を知ることができるプログラムとなった。

プロフェッショナル向けに先駆けて公演を見せることができるという催事の特徴が浸透し、本ミーティングにあわせて横浜で公演を実施する団体が増えてきた。一方で、鑑賞者にとってインターナショナル・ショーケースとの違いがわかりづらく、参加する各団体や舞台芸術シーンの動向にあわせて、全体のプログラムを参加者それぞれがプランしやすいよう見直す必要があり、今後の課題としたい。

## 演目一覧

### □ セブン・フィンガーズ『ロフト』

2月7日(木) 19:00 | 8日(金) 19:00 | 9日(土) 13:00/17:00 | 10日(日) 13:00

KAAT 神奈川芸術劇場<ホール>

主催：神奈川県、KAAT 神奈川芸術劇場（指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）

共催：tvk、TBS

後援：横浜市、神奈川新聞、FMヨコハマ

協力：ケベック州政府在日事務所、tvk コミュニケーションズ

### □ Rules and Regs with ST Spot

2月9日(土) 15:00 | 10日(日) 15:00

KAAT 神奈川芸術劇場<中スタジオ>

主催：ST スポット、高知県立美術館

共催：横浜市、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

助成：グレイトブリテン・ササカワ財団、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、

アーツ・カウンシル・イングランド

平成 24 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

協力：黄金町エリアマネジメントセンター、急な坂スタジオ、シアターナイチンゲール（ブライトン）

企画制作：ST スポット（大平勝弘）、Rules and Regs (Seth Kriebel)

### □ EPPA — the encounter with provocative performing arts presented by LUFTZUG

PANCAKE

2月9日(土) 19:00 | 10日(日) 19:00

象の鼻テラス

主催・プロデュース：ルフトツーク

協力：象の鼻テラス、WHITELIGHT、DOTWORKS、Prism co., ltd.

□ マームとジブシー 『あ、ストレンジャー』

2月9日(土) 19:30 | 10日(日) 14:00/19:00 | 11日(月) 19:30 | 12日(火) 14:00

のげシャール (横浜にぎわい座)

主催: マームとジブシー

共催: 横浜にぎわい座

□ 岡田利規 × ビッグアイロン・シアターカンパニー 『ゼロコストハウス』

2月11日(月) 20:00 | 12日(火) 14:00/20:00 | 13日(水) 14:15/19:00

KAAT 神奈川芸術劇場<大スタジオ>

主催: フリコグ

共催: 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

□ 横浜ダンスコレクション EX 受賞者公演 KENTARO!!

2月13日(水) 19:00

横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール

主催: 横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

共催: 在日フランス大使館、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

□ DANCE TRUCK PROJECT vol.2

2月14日(木) ~ 16日(土) 17:55

TPAM メイン会場周辺 (2月14日: 開港広場、15日: 象の鼻パーク、16日: KAAT 神奈川芸術劇場)

主催: NPO 法人 Offsite Dance Project、全日本ダンストラック協会、

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

配信企画: 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 Global Education Project

助成: マザーポートエリア創造活動支援事業

後援: 横浜市文化観光局

協力: 横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

SPECIAL THANKS to Malina Rodriguez (DANCE TRUCK, US)

□ 富士山アネット 『シャウレイの十字架』

2月14日(木) 20:00(プレビュー) | 15日(金) 20:00 | 16日(土) 15:00/20:00 | 17日(日)  
11:30/15:00

のげシャーレ (横浜にぎわい座)

主催: 富士山アネット

共催: アトリエ劇研、横浜にぎわい座

□ アンティエ・グライエ=リパッティ (AGF) 『Gedichterbe サウンド・ポエトリー ドイツ 詩と歌の遺産』

2月14日(木) 20:00

BankART Studio NYK NYK ホール

主催: 東京ドイツ文化センター

□ トヨタ コレオグラフィーアワード トーク & ショーイング

2月15日(金) 15:00

横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール

主催: TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 実行委員会、トヨタ自動車株式会社

提携: 公益財団法人 せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター

共催: 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

協力: 横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、

NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN)

□ 日本 — 韓国ダンス交流プロジェクト 横浜ダンスコレクション × ソウルダンスコレクション  
Dance Connection

2月15日(金) 19:00 | 16日(土) 19:00

象の鼻テラス

主催: 横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

共催: Seoul Performing Arts Festival、八戸市、

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

TPAM 会期中に横浜、東京近郊で行なう団体の自主公演を、TPAM に参加する国内外のプロフェッショナルに紹介するプログラム。出展団体は集客を拡大させるだけではなく、プロフェッショナルの来場を促すことができ、対する TPAM 参加者にとっては、TPAM ショーケースというフレームで情報が提供されることで、若手を中心とするアーティスト／カンパニーの公演情報が顕然化し、観劇する機会となる。

各出展団体には割引やグッズ提供など TPAM 参加者への特典を任意で設けてもらうのに対し、事務局は日本語と英語での公演情報の掲載と予約受付を行なっている。オンライン上に予約フォームを設置した結果、多くの TPAM 参加者から予約の申し込みがあった。特に本年度は、催事の会期を月曜からの 1 週間ではなく、土・日を含めた 9 日間としたことで、TPAM 会期前半の 9 日～ 11 日に公演を行なう団体からも登録があり、日本の TPAM 参加者や、早めに来日していた外国からの参加者らが観劇する様子が見受けられた。

出展団体には TPAM パスを 2 枚提供し、TPAM エクスチェンジなどでのネットワーキングを促している。TPAM 期間中に公演があるため主催プログラムへの参加は多くの団体にとって難しいようだが、会期前半に公演のあった団体を中心に、ショーイング・プログラムのほか、TPAM エクスチェンジ、スピード・ネットワーキングに積極的に参加する団体もあり、作品を提供するだけではなく、参加者間で交流する光景もみられた。

今回は、Q やバストリオ、岡崎藝術座といった若手アーティストが、積極的に TPAM を視野に入れた公演を企画し、字幕をつけての上演を実施するなど出展団体が主体的に催事に参加するようになった。国際的に活動を展開する意欲は作品を見る側にも伝わり、新しい対話が生まれることにもつながっている。

登録に審査はなく、期間や場所などの条件があれば、誰でも登録できるプログラムになっている。しかしながら国内外のプロフェッショナルに向けて発表したいという意欲的な作品が集まるため、他のプログラムではカバーできない様式のパフォーマンスや上演会場など多様な舞台芸術シーンを紹介するプログラムとして参加者にも浸透している。

## 演目一覧

### □ Q 『いのちのちQ』

2月8日(金) 19:30 | 9日(土) 13:30/17:30 | 10日(日) 13:30/17:30 | 11日(月) 15:30  
さくらWORKS

### □ バストリオ 『点滅、発光体、フリー』

2月7日(木) 20:00 | 8日(金) 20:00 | 9日(土) 14:30/19:30 | 10日(日) 14:30/19:30 | 11日(月) 13:30/17:30  
nitehi works 3F

## TPAM ショーケース

---

□ 東葛スポーツ『ドッグヴィル』

2月7日(木) 19:30 | 8日(金) 19:30 | 9日(土) 19:30 | 10日(日) 19:30 | 11日(月) 19:30

3331 Arts Chiyoda 1Fコミュニティスペース

□ ももいろぞうさん『ももいろぞうさん ランチショー2013』

2月10日(日)・16日(土)

各日11:50 Open/12:30 Start/14:30 Close

AFR Yokohama

□ カンパニーテラシネラ『異邦人』

2月14日(木) 19:30 | 15日(金) 14:00/19:30 | 16日(土) 13:00/18:00 | 17日(日) 14:00

世田谷パブリックシアター

□ ミクニヤナイハラプロジェクト『静かな一日』

2月14日(木) 19:30 | 15日(金) 19:30 | 16日(土) 15:00/19:30 | 17日(日) 15:00

吉祥寺シアター

□ 中村達哉『そこから眺める』

2月14日(木) 20:00 | 15日(金) 20:00

STスポット

□ 劇団鹿殺し『BONE SONGS』

2月15日(金)～3月3日(日)

\*平日・2月16日(土) 19:00 | 2月17日(日)・23日(土)・3月2日(土) 14:00/19:00 | 2月24日

(日)・3月3日(日) 14:00 | 2月18日(月)・19日(火) 休演

東京芸術劇場 シアターイースト

□ んまつー波斯『んまつー波斯+宮崎大学～そうなるまでの事情 vol.1～』

2月16日(土) 19:00 | 17日(日) 13:00/17:00

STスポット

□ 86B210『Through The Keyhole』

2月16日(土) 20:00 | 17日(日) 14:00/18:00

両日12:00-21:00にビデオ作品上映(パフォーマンス・リハーサル時間除く)

BankART Studio NYK NYKホール

□ 岡崎藝術座『隣人ジミーの不在』

2月17日(日) 14:00(公開ゲネプロ)/19:30 | 18日(月) 14:00/19:00

横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール

ネットワーキング・プログラム



これまでのブース出展プログラム、プレゼンテーション・プログラムを見直し、今回「TPAM エクスチェンジ」と名称を変更して実施したネットワーキング・プログラム。ネットワーキングは国際舞台芸術ミーティング in 横浜の趣旨を担う一つの要素であり、公演を実施しない団体や遠方のホール・劇場、中間支援団体が主体的に参加し、それぞれの活動紹介をすることができるスキームでもある。

これまでのブース出展を踏襲した、一定のスペースを確保して活動紹介を行うスタンド出展、映像を使って複数の参加者へ同時に発表できる映像プレゼンテーション、参加するプレゼンターを囲んで複数の参加者が一つのテーマをもって議論するグループ・ミーティング、国内外の劇場／ホール／フェスティバルのディレクターと1対1でミーティングを行うスピード・ネットワーキングというプログラムを総称して、TPAM エクスチェンジとした。

また前回までは公募制で参加者を募り、事務局が全体の会場やスケジュールをコーディネートするかたちで実施していた本プログラムであるが、今回は、前回TPAM ディレクションのディレクターを務めた野村政之氏（こまばアゴラ劇場・劇団青年団）をファシリテーターとして迎え、これまで参加したことのない若手カンパニーの制作者などへ、参加方法やどのような効果があるのかを積極的に紹介し、幅広い層の参加者が新しい出会いやネットワークを求めて来場し、熱気溢れる会場となった。

2011年「Market」から「Meeting」へ名称を変更したように、市場経済理論から生まれた見本市という形態から、より参加者同士の交流や情報交換、アイデアの共有の場を求める声が高まり、ブース出展というプログラムの見直しが常に課題として挙がっていた。一方で、公共ホールや会期中に公演を実施しない芸術団体にとって、催事へのプレゼンスを確保するためのブース出展という参加形態への需要も根強く存在していた。必要な情報に自由にアクセスでき、参加者同士が有機的につながることのできるプラットフォームを目指すなかで、今回の試みはその過渡期にあるといえる。劇場やフェスティバルのディレクターに作品を一方的に売り込む時代から、お互いのミッションや理念、活動内容・方向性などを理解しあう双方向のコミュニケーションが必要な時代へとシフトしている。実際、直接公演実現に結びつかない関係性が継続したことによって、新しい形態で結実することもある。そのような価値観の更新を時代に即して行っていくために、今後も本プログラムは発展し続けなければならない。



## スタンド出展者一覧（登録順）

高知県立美術館

あいちトリエンナーレ 2013

The Human Expression (T.H.E) Dance Company / Contact Contemporary Dance Festival

Korea Arts Management Service (KAMS) / Performing Arts Market in Seoul (PAMS)

フェスティバル/トーキョー

フレンチ・パフォーミング・アーツ（フランス芸術振興会、アンスティチュ・フランセ日本）

Point View Art Association

あうるすぽっと

Race Horse Company

(社) 国際演劇協会 (ITI / UNESCO) 日本センター

山口情報芸術センター [YCAM]

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ

世田谷パブリックシアター

ヨコハマトリエンナーレ 2014

コンスタンツァ・マクラス/ドーキーパーク

Co. 山田うん

快快

有限会社ネビュラエクストラサポート (Next)

えだみつ演劇フェスティバル

トヨタ コレオグラフィーアワード

国際交流基金

公益財団法人神奈川芸術文化財団

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

国際舞台芸術交流センター (PARC)



スタンド出展スペース



### スピード・ネットワーキング ホスト一覧

- Pham Anh Phuong (Director, Vietnam National Opera Ballet, Vietnam)
- Anna Belyaeva (Media curator, Platforma Projec, Russia)
- Annemie Vanackere (Artistic & Managing Director, HAU Hebbel am Ufer, Germany)
- Dewi Noviami (Program Director, Dewan Kesenian Jakarta [Jakarta Arts Council], Indonesia)
- Deric Gan (Independent director & actor, China)
- Felimon Bonita Blanco (Chairman & Executive Director, ZamboSur Arts Center, Philippines)
- Joe Sidek (Festival Director, George Town Festival, Malaysia)
- Jordan Peimer (Vice President & Director of Programs, Skirball Cultural Center, USA)
- Liping Lu (Producer, Shanghai Dramatic Arts Center, China)
- Lisa Sripatanasakul (Director & performer, Mutemime, Thailand)
- Mandeep Raikhy (Managing Director, The Gati Dance Forum, India)
- Marija Januskina (Project Coordinator, Golden Mask Russian Festival of Performing Arts, Russia)
- Mariana Arteaga (Dance Curator & Program Advisor, Centro de Cultura Digital, Mexico)
- Maurizia Settembri (Director, Fabbrica Europa, Italy)
- Ondřej Svoboda (Deputy director & Head of the Theatre Institute, Arts and Theatre Institute, Czech Republic)
- Pedro H S de Freitas (Périplo Produções, Brazil)
- Sixto A. Wagan (Co-Executive Director & Performing Arts Curator, Diverse Works Artspace, USA)
- Vallejo Gantner (Artistic Director, Performance Space122, USA)
- Yani Mae (Director, Actor & Instructor of STSI Bandung, Indonesia)
- 藤井明子 (あいちトリエンナーレ2013プロデューサー・愛知芸術文化センター主任学芸員)
- 相馬千秋 (フェスティバル/トークョー プログラム・ディレクター)
- 横堀ふみ (特定非営利活動法人DANCE BOX ディレクター)
- 井高久美子 (山口情報芸術センター [YCAM] アシスタントキュレーター、エデュケーター)
- 市原幹也 (演出家、劇団のこされ劇場=主宰、枝光本町商店街アイアンシアター芸術監督)
- 倉持陽介 (スパイラル/ (株)ワコールアートセンター アートプロデュース部 象の鼻テラス担当)
- 蔭山陽太 (神奈川芸術劇場 支配人)
- 橋本裕介 (KYOTO EXPERIMENT プログラム・ディレクター)

## グループ・ミーティング テーマ、ホスト一覧

- 「キラリ☆ふじみレパートリー」について | ホスト: 松井憲太郎・紅林泉好 (富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ)
- 「美術館におけるライブ性」 | ホスト: 藪前知子 (東京都現代美術館)
- ARC>T (Art Revival Connection TOHOKU) と仙台の演劇活動 | ホスト: 鈴木拓 (ARC>T / 杜の都の演劇祭)
- F/T 共同制作・共同招聘について / F/T 公募プログラムについて | ホスト: 武田知也 (アート・ネットワーク・ジャパン)
- in → dependent theatre と INDEPENDENT | ホスト: 相内唯史 (in → dependent theatre)
- KYOTO EXPERIMENT 2013 フリンジ企画 | ホスト: 橋本裕介 (KYOTO EXPERIMENT)
- Next (ネビュラエクストラサポート) 広報手段としてのチラシ折込み代行について | ホスト: 川口聡 (Next)
- Race Horse Company の今後の作品やプロジェクト“アジア”の紹介 | ホスト: Race Horse Company
- アーティスト&カンパニーと世田谷パブリックシアターとの連携 / 世田谷パブリックシアターが発信するコミュニティプログラム / 新作舞台芸術作品 | ホスト: 菅原力、大下玲美 (世田谷パブリックシアター)
- アート・フェスティバルの中の舞台芸術 | ホスト: 佐藤道元 (アートフロントギャラリー)
- あうるすぽっと (豊島区舞台芸術交流センター) への提案ヒアリング / 参加型プログラムについて | ホスト: ヲザキ浩実 (あうるすぽっと)
- アサヒ・アートスクエアについて | ホスト: 坂田太郎 (アサヒ・アートスクエア)
- ゴーチ・ブラザーズの活動について | ホスト: 伊藤達哉 (ゴーチ・ブラザーズ)
- こまばアゴラ劇場 / アトリエ春風舎について | ホスト: 木元太郎 (こまばアゴラ劇場 / アトリエ春風舎 / 劇団青年団)
- コンスタンツァ・マクラス / ドーキーパークについて | ホスト: ケティング菜々 (プリコグ)
- セゾン文化財団の国内向け支援 | ホスト: 岡本純子 (公益財団法人 セゾン文化財団)
- セゾン文化財団の海外向け支援 | ホスト: 稲村太郎 (公益財団法人 セゾン文化財団)
- セゾン文化財団の国際プロジェクト支援 | ホスト: 堤治菜 (公益財団法人 セゾン文化財団)
- ネビュラプロジェクト、ナッポスユナイテッドの活動について | ホスト: 仲村和生 (ネビュラプロジェクト / ナッポスユナイテッド)
- プリコグの活動について | ホスト: 中村茜 (プリコグ / ドリフターズ・インターナショナル)
- マカオの Point View Art Association について | ホスト: Point View Art Association
- ロクソドンタブラックについて | ホスト: 中立公平 (ロクソドンタブラック / KIO)
- 王子小劇場について | ホスト: 玉山悟 (王子小劇場)
- 快快 / FAIFAI の活動について | ホスト: 河村美帆香・大道寺梨乃 (快快 / FAIFAI)
- 韓国「ナム・ジュン・パイク・アートセンター」の活動について | ホスト: イ・チェヨン (ナム・ジュン・パイク アートセンター)
- 韓国のフリーランス企画者との出会い | ホスト: キム・ヘジュ (フリーランス企画・制作者)

- 急な坂スタジオの制作支援 | ホスト：加藤弓奈（急な坂スタジオ）
- 京都の小劇場「KAIKA」について | ホスト：植村純子（KAIKA / フリンジシアタープロジェクト / 劇団衛星）
- 九州での舞台芸術活動について | ホスト：中村茜（プリコグ / ドリフターズ・インターナショナル）
- 三重県文化会館と津の演劇環境 | ホスト：松浦茂之（三重県文化会館）
- 枝光本町商店街アイアンシアターについて | ホスト：市原幹也（枝光本町商店街アイアンシアター / 劇団のこされ劇場⇒）
- 若手制作者の集い | ホスト：赤羽ひろみ（ゴーチ・ブラザーズ）、仲村和生（ネビュラプロジェクト / ナッポスユナイテッド）
- 新潟・りゅーとぴあと芸術のミナト新潟演劇祭 | ホスト：今尾博之（りゅーとぴあ [新潟市民芸術文化会館]）
- 神戸 Dance Box の活動について | ホスト：横堀ふみ（Dance Box）
- 鳥取・鳥の劇場について | ホスト：齋藤啓（鳥の劇場）
- 舞台芸術制作者オープンネットワークについて | ホスト：伊藤達哉（ゴーチ・ブラザーズ / 舞台芸術制作者オープンネットワーク発起人）、橋本裕介（KYOTO EXPERIMENT / 舞台芸術制作者オープンネットワーク発起人）、齋藤啓（鳥の劇場 / 舞台芸術制作者オープンネットワーク発起人）
- 名古屋 / 地域で一筋 40 年 / うりんこ / 継続するカンパニー | ホスト：平松隆之（うりんこ劇場・劇団うりんこ）

### 映像プレゼンテーション参加出展者一覧

- フレンチ・パフォーミング・アーツ
- Co. 山田うん
- あいちトリエンナーレ 2013
- コンスタンツァ・マクラス / ドーキーパーク
- あうるすぽっと
- フェスティバル / トーキョー
- Point View Art Association
- トヨタコレオグラフィーアワード
- 山口情報芸術センター [YCAM]
- Race Horse Company
- 富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ
- 快快
- Korea Arts Management Service
- 公益財団法人神奈川芸術文化財団



撮影：事務局

スピード・ネットワーキング



撮影：事務局

グループ・ミーティング



映像プレゼンテーション

### TPAM ディレクション ディレクターズ・トーク

□ 宮永琢生 × 中村茜

2月14日(木) 杉原邦生『½PA ナイツ!?!』終演後  
KAAT 神奈川芸術劇場<5F メインロビー>

□ 大平勝弘 × 野村政之

2月15日(金) 大橋可也『WAGASHI—my master, my words, my death, my will』、村川拓也『ツァイトゲーバー』終演後  
KAAT 神奈川芸術劇場<大スタジオ>

□ 小倉由佳子 × 野村政之

2月16日(土) きたまり/KIKIKIKIKIKI『戯舞』、劇団子供鉅人『Where is crocodile?』終演後  
KAAT 神奈川芸術劇場<中・小スタジオ>

それぞれの活動現場から離れ、TPAM ディレクションというフレームに向かい合いプログラムを企画した3ディレクターによるポスト・パフォーマンス・トーク。どのような問題意識をモチベーションとしてコンセプトを立て、どのような対話がアーティストとなされてきたのか。前回までTPAM ディレクションのディレクターを務めた中村茜氏と野村政之氏をモデレーターとして迎え、アーティストと観客、舞台芸術と社会をつなぐ制作者としての視点から各プログラムについて掘り下げた対談を行なった。



撮影：事務局

宮永琢生 × 中村茜

## 「クリエイティブ・ヨーロッパ・プログラム 2014-2020」について

2月14日（木） 20:30-22:00

BankART Studio NYK 2F

第1部 20:30-21:15

カンファレンス「いかにしてヨーロッパとアジアの芸術的・文化的協働を強化するか？」

スピーカー：ピエール・ソヴァジョ（作曲家／マルセイユ国立創造センター-Lieux Publics ディレクター）、アニエス・アンリ（Extrapole ディレクター）

第2部 21:15-22:00

ワークショップ「クリエイティブ・ヨーロッパ・プログラム 2014-2020：ユーロ＝アジア協働への窓口」

グローバル化された世界において、ヨーロッパとアジアが両者の芸術的・文化的関係のあり方を再定義しようとしている中、各地域の当事者間の公正さ、長期的視野、社会的問題意識に基づいた持続的な協働を可能にする条件を創出するため、EUが開始する「クリエイティブ・ヨーロッパ・プログラム 2014-2020」を紹介。世界中のプロフェッショナルの間に多様で多面的な対話を生むための興味深いツールとなり得る同プログラムについて、ユーロ＝アジアの未来の協働に関心を持つプロフェッショナルがディスカッションを始めるためのワークショップとして開催した。ワークショップへの導入として、フランスのプロフェッショナル、ピエール・ソヴァジョ氏とアニエス・アンリ氏をスピーカーに招き、日本やアジアへの開かれたアプローチがヨーロッパにとってなぜ重要なのかをテーマにカンファレンスを開いた。



撮影：事務局

### 演出家・飴屋法水との対話

いのち  
「生命」と関わる演劇 — 国東半島（大分県）といわき（福島県）で製作された作品から

2月15日（金）14:00-16:00

BankART Studio NYK 2F

スピーカー：飴屋法水（演出家）、中村茜（プロデューサー／株式会社プリコグ 代表取締役／NPO 法人ドリフターズ・インターナショナル 理事）

飴屋法水『いりくちでくち』（2012年11月／国東半島アートプロジェクト2012秋）にプログラム・ディレクターとして関わった中村茜氏（2011年、2012年TPAMディレクションディレクター）をモデレーターに迎え、同作品と『ブルーシート』（2013年1月／福島県いわき総合高等学校総合学科第10期生アトリエ公演）を中心に、ダイジェスト映像を通して紹介。『いりくちでくち』は、直径30kmの放射状の地形が特徴的な国東半島が舞台となった。1300年前から続く山岳信仰の歴史を背負った風景や数千の寺社仏閣の存在、農村の生活文化が色濃く残る風土を素材にして、過疎化高齢化が進むなかで暮らす現地のこどもたちと共につくられた12時間のバスツアー作品。『ブルーシート』は、未だに震災の跡が生々しく、現在進行形の事故が起きている福島第一原発から43km圏内にあるいわき総合高校のグラウンドで上演された。阪神大震災の直前・直後に生まれ、東日本大震災の前日に試験を受けて入学した学生たちの複雑に絡まり合う真情が彼らの日常生活とともに描かれる。どちらの作品も美しく感動的な側面と同時に、悲痛な現実をも浮き彫りにする。現代演劇の実践の最先端をゆく飴屋氏の創作の核心に迫るトークとなった。



## 「アート」で「世界」を映す場所

— ユニークな美術館、アートセンターの取り組み

2月17日（日）13:30-15:30

BankART Studio NYK 2F

スピーカー：岡村幸宣（原爆の図丸木美術館 学芸員）、イ・チェヨン（Nam June Paik Art Center キュレーター）、アンナ・ベリヤーエワ（Platforma メディア部門キュレーター）、マリアナ・アルテアガ（Centro de Cultura Digital プログラム・アドバイザー）、デウィ・ノフィアミ（Dewan Kesenian Jakarta プログラム・ディレクター）

年々盛んになる美術館やアートセンターにおけるパフォーミング・アーツ事業。2012年のTPAM ディレクションで紹介したチン↑ポムのプロジェクトを実施した原爆の図丸木美術館の学芸員で、コンテンポラリー・アートの認知を普及する講演活動なども行なっている岡村幸宣氏をメインスピーカーに招き、韓国、ロシア、メキシコ、インドネシアのそれぞれパフォーミング・アーツを積極的に取り入れている美術館やアートセンターにおけるジャンルを超えた多様な実践を各国からのゲスト4氏が紹介した。



撮影：事務局



フランス芸術振興会 (Onda)、アンスティテュ・フランセ横浜の主催で実施した、現代フランス舞台芸術の最前線で活躍するアーティストやそのカンパニーの代表者とアジアを拠点に活動するプロデューサーの出会いを創出するプログラム。

フランスから来日した6組のアーティスト・グループが活動内容や企画を紹介し、国際舞台芸術ミーティング in 横浜に参加している、主にプロデューサーが少人数のグループとなって各アーティストのテーブルをまわり、カジュアルな雰囲気の中か交流、情報交換を行った。

昨年に続き、2度目の開催となる本プログラムでは Onda、アンスティテュ・フランセ横浜によって選出された世界でも注目を集めるフランスのアーティスト／カンパニーが参加し、日仏通訳つきでミーティングを行うことのできる貴重な機会でもある。

来日したアジア諸国のプレゼンターへの出会いの機会を提供する意味でも有意義なプログラムであった。

主催：アンスティテュ・フランセ横浜、フランス芸術振興会 (Onda Office national de diffusion artistique)

2月15日 (金) 12:30-14:30

2月16日 (土) 13:30-15:30

ヨコハマ創造都市センター (YCC) 1F

参加アーティスト：アミカル・ドゥ・プロデュクション (ジュリアン・フルネ、マチルド・マイヤール)、カミュー・ボワテル (代理人 ジュリアン・クジイ)、ヴァンサン・デュボン、フレデリック・ベルシーヌ、グループ・アントルス (ラファエル・ラティーニ、サミュエル・ルーフヴル)、モー・ル・ブラデック、ナターシャ・ル・フレーヌ、フィリップ・ケーヌ、オレリー・ギトン



写真提供：アンスティテュ・フランセ横浜

舞台芸術と社会を繋ぐ制作者を中心とした全国的・国際的な会員制ネットワーク「舞台芸術制作者オープンネットワーク」の設立イベントを共催で実施した。

1年間の準備期間を経て立ち上がった「制作者」を対象としたネットワークであること。また、全国的、国際的な組織であることなどから、国際舞台芸術ミーティング in 横浜の参加者がまさにその対象となり、双方にとって有益な共催イベントとなった。

2日間にわたり、誰でも参加できる説明会、シンポジウムと、会員のみ参加する総会の4部構成で行われた。

シンポジウムでは、国内外で特にアート、舞台芸術のネットワークを構築し、牽引している関係者をスピーカーとして迎え、事例紹介および舞台芸術の仕事に携わっている客席側との間で闊達な意見交換がなされた。「劇場法」をテーマに行ったシンポジウムでは、比較的国内寄りのテーマということもあり、国内からの参加者が主だったが、参加した海外の来場者からは日本の舞台芸術が置かれている環境を知ることができたとして、好評であった。

国内外の舞台芸術関係者が一堂に会する国際舞台芸術ミーティング in 横浜では、参加者のより効率的にネットワークを作りたい、もしくは各地のネットワーク同士がつながる可能性も含め、特にアジアの関係者との連携を図るうえで、今後このような催事を積極的に招致していきたい。

主催：舞台芸術制作者ネットワーク・ミーティング（仮称）準備会

共催：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会

助成：公益財団法人セゾン文化財団

2月13日（水）

14:30-16:00

舞台芸術制作者オープンネットワーク説明会

16:15-18:00

シンポジウム vol.1 「オープンネットワークとは？」

スピーカー：ヘンク・カイザー（IETM 監事）、レナータ・ペトロニ（National Performance Network 国際プログラムディレクター）、樋口貞幸（アートNPOリンク 常務理事兼事務局長）、バク・ジスン（AsiaNow クリエイティブ・プロデューサー）、他

2月14日（木）

10:30-11:30

設立総会

役員（理事、監事）の選任／2013年度事業計画の承認／2013年度収支予算の承認

舞台芸術制作者オープンネットワークの会員のみ（当日入会可）

12:15-15:15

シンポジウム vol.2 『劇場法』徹底解析 ～現状理解と運用の可能性をめぐって～

スピーカー：高萩宏（東京芸術劇場 副館長）、米屋尚子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕）、他



舞台芸術制作者オープンネットワーク説明会



シンポジウム vol.1 「オープンネットワークとは？」

## パブリシティの記録



# Catch! up

2月は横浜で  
舞台芸術の最先端を  
楽しんじゃおう!

TPAM (ティーパム) って知っていますか? 1995年に「芸術見本市」として東京で始まった、舞台芸術に取り組むプロのための国際的なイベント。2011年から会場を横浜に移し、多くのゲストを迎え開催されています。臨場感あふれるパフォーマンスを実際に楽しむ「ショージング・プログラム」と、ミーティングやディスカッションなど、人とのつながりを広げる「ネットワーキング・プログラム」の2つの柱からなるイベントです。

もちろん、プロだけではなく私たち一般人も観覧・参加できるイベントがたくさん! 普段は見ることが

できない、さまざまなダンスカンパニーが表現するパフォーマンスを楽しんでみませんか?

たとえば、若手メンバーがディレクションし、アーティストとともにつくる作品「TPAMディレクション」は、2月13日(水)、15日(金)~17日(日)にKAAT神奈川芸術劇場で開催。新しいセンスに挑戦した意欲的な作品が登場。心揺さぶられる衝撃的なパフォーマンスに出会えるかも! また、海外ゲストによるトークなども実施。参加は事前登録制ですが、チケットで入場できるプログラムや入場無料のイベントも。詳細はホームページで確認を。



Photo: Ayako Abe『生まれてはみたものの』(2010)



©Caroline Abtain『Professor』

**TPAM**  
イベントの目印はこのマーク

**DATA** .....

**TPAM in Yokohama2013 (国際舞台芸術ミーティング in 横浜2013)**  
期間 2月9日(土) ~ 17日(日)  
主会場 KAAT神奈川芸術劇場、ヨコハマ創造都市センター (YCC)ほか  
<http://www.tpam.or.jp/>

『シティリビング』横浜版 (サンケイリビング新聞社) P.4 2013.2.1

## BLOUIN ARTINFO

Published on Artinfo (<http://enja.blouinartinfo.com>)

### 5 Must-See Dance Performances at Tokyo Performing Arts Market

Language  
English, Japan



Courtesy Jason Tong  
Daniel Kok will be performing Q&A as part of TPAM 2013 in Yokohama, Japan, by Robert Michael Poole  
Published: February 7, 2013

TOKYO – Japan's most important dance festival of the year opens this weekend in Yokohama, with performances from the leading lights of Japanese dance, as well as international guest performers.

ウェブサイト「BLOUIN ARTINFO」

※「Tokyo Performing Arts Market」ママ



## TPAM의 젊은 실험

작성자 : 오세형, 아시아문화개발원 문화예술총괄운영팀장  
2013.02.27

### TPAM의 젊은 실험

[통영] 2013 오키야마 공연예술이팅(TPAM) 리뷰

[TPAM(Performing Arts Meeting in Yokohama)은 1995년에 설립된 국제공연예술 이팅미팅이다. 도쿄에서 시작된 Tokyo Performing Arts Market이 2011년 오키야마로 이전하였고 이름도 "이팅"에서 "미팅"으로 바뀌면서 "오키야마 공연예술이팅"으로 개칭했지만 브랜드화된 TPAM이라는 명칭은 유지해오고 있다.]



YCC(오키야마 창작센터, Yokohama Creativity Center), 1층:정보데스크, 2층:전시관스  
출처:서용

올년 TPAM 기간은 약 100여일인것(2013. 2. 9~17) 40여개의 공연과 쇼케이스, 그 외에도 거의 매일 컨퍼런스, 스피치이팅, 토론과 회의가 개최되었다. TPAM은 그동안 표현적으로 내세웠던 '연습사'의 명분을 버리고 정보교류, 상호학습, 교류, 네트워크 구축을 강조하는 '미팅'이라는 개념으로 바뀌었다. 그 전과 프로그램 구성이 크게 달라진 것은 아니지만 성격은 완전히 달라졌다. 이전 같은 선형형 구조로 차라졌을 부스전 시는 30여개 단위로 축소되어 행사 사이에 오존되었고, 그 대신 다양한 만남과 회의, 그리고 공연관련과 작가와의 대화가 본격적인 프로그램이 되었다. 무엇보다도 이러한 민간전문가들의 교류가 국고나 공공이 지원한다는 점이 반가웠다. 참가자들은 공연작품을 사과는 부담에서 벗어나 자유롭게 자신의 활동을 표창하고, 의견을 교환하고, 친구를 만들고, 아시아의 유망의 공연동향을 파악하기에 반주해 보였다.

## 舞台芸術サイト 「theApro」 2013.2.27

杭州网 首页 | 新闻 | 动漫 | 汽车 | 楼市 | 公交 | 议事厅 | 娱乐 | 小记者 | 休闲 | 旅游 | 教育 | 原创 | 体育 | 数码 | 家居 | 微博 杭报集团主办

杭州日报报业集团  
数字报纸

2013年3月29日 上一期 下一期 按日期查找

杭州日报 HANGZHOU DAILY 都市快报 1111111111 都市商报 城市生活 METRO

搜索 高级搜索 版面概览 | 版面导航 | 标题导航 返回首页

上一篇 字体: 放大 缩小 默认 朗读

### 日本TPAM艺术节淘戏记

2013-03-29

【戏剧笔记】

剧中只有一个演员、扮演护士，需要在现场找一个观众上来扮演病人，全程就是展现这个护士如何照顾失去生活自理能力、不能言语的病人。再度被感动.....

文 水晶

不久前，受邀去日本横滨参加TPAM艺术节（Performing Arts Meeting in Yokohama 2013），相比于2010年东京艺术节，我觉得这次TPAM中的节目，更前卫，更实验。







### 古きを知って新しきを知る

大滝秀治、轟光子、中村勘三郎と演劇界の巨星が多数退った12年。13年は、その先をどう描くか、問われる1年になりそうです

TEXT:



REI KUMAI

熊井 玲

くまいれい/今年21周年を迎えた月刊演劇情報誌「シアターガイド」編集長。原稿への「ガイド」もなるべく、国内およびNY、ロンドン、ソウルの演劇情報を、ジャンルを超えてご紹介！  
公式HP [www.theaterguide.co.jp](http://www.theaterguide.co.jp)



【東京ノート】  
1月10日(水)~20日(日) 劇場アコラ劇場にて



【TPAM in Yokohama 2013】  
2月9日(土)~17日(日) [www.tpam.or.jp](http://www.tpam.or.jp)

何度も何度も同じシーンを繰り返すことで、生と死の普遍性を描いた『再/生』、『自分』を名乗る人物が3人集まり、やがて人物の境界線が曖昧になっていく『3人いる!』など、演劇の可能性に迫り続ける演出家・多田淳之介。彼が主宰する東京デスロックが、東京公演休止を宣言したのは08年末のこと。あれから4年、埼玉・青森・北九州・韓国など、東京以外の国内外各地で公演を行って来た彼らが、いよいよ東京公演を再開させます。その復帰第1作となるのは、多田が所属する青年団・平田オリザの、『岸田國士戯曲賞』受賞作『東京ノート』。近未来の、東京のある美術館を舞台に、家族や恋人たちの物語が繰り広げられます。この4年間、「どこで誰とともに作るか」にこだわり続けて来た多田が、東京の俳優・観客たちとどんな劇空間を創り出すのか、多に期待です。

そして、TPAMが今年も横浜で開催されます。「国内外から人々が集う、舞台芸術の国際的プラットフォーム」を謳う同プロジェクト、要となるショーケース「TPAMディレクション」のディレクター3名が一新されたことで、より新しい風が起ころうです。中でも注目は、きたまり主宰のダンスカンパニー KIKIKIKIKIと益山貴司率いる劇団子供連人、そしてホノノ歌舞伎やKUNIOで、歌舞伎から現代劇、ダンスまで幅広い作品に取り組み演出家・杉原邦生。いずれも身体性の強さ、構成力の高さ、大胆さが注目を集める若手クリエイターたちが、今回は舞台でどう「遊ぶ」のか楽しみます！さらにチェルフィッチュ・岡田利規がアメリカのビッグアイロン・シアターカンパニーとコラボする『ZERO COST HOUSE』も、震災以降の生活の在り方について、「自伝仕立て」で迫ります。必見です！

『BARFOOT!』 P.85 2013.1.17

# 08

STAGE

## 『TPAM』



Courtesy of Pig Iron (ZERO COST HOUSE|2012)

舞台芸術の国内外の人々が集まり、最新プロジェクトを紹介する『TPAM』。横浜へ場所を移し、徒歩圏にある文化施設を会場に、今年も愉快的企画が目白押しだった。中でもビッグアイロン・シアターカンパニーと組み、チェルフィッチュ主宰・岡田利規が脚本を務めた、自身初の国際的コラボレーション作品『ZERO COST HOUSE』(2月11日~13日)に注目を。近著『遊行』(河出書房新社刊)で演劇論を綴った岡田は、震災後に変化した「生活の在り方」を「自伝仕立て」で問ひかけ、そこに海外からの視線、演出を求めた。コミュニケーションを刺激する舞台芸術は、発展し続けていく。(岡田麻美)

『TPAM』 2月9日~17日、開催終了  
[www.tpam.or.jp](http://www.tpam.or.jp)

『遊行 変形していくための演劇論』 発売中(河出書房新社)  
[chelfitsch.net](http://chelfitsch.net)

『BARFOOT!』 P.74 2013.2.19



※ 2013年5月現在。TPAM ディレクション Plus、TPAM ショーケースの演目のみに関する記事は除外。

月刊誌	シアターガイド	2月号
	BARFOUT	1月17日、2月19日
	ケトル	4月13日
新聞	共同通信	
	朝日新聞 夕刊	2月7日
	朝日新聞（関西版）夕刊	4月5日
ラジオ	NHK-FM	1月7日
	FMヨコハマいつもふたりで	1月12日
	ニッポン放送 ようこそ横浜	1月25日
	インターFM	1月28日～2月1日
	ニッポン放送	2月1日、8日
	FMヨコハマ ヨコハマチョイス8	2月24日
テレビ	tvk ずばり横浜	2月23日
フリーペーパー	地域創造レター 2月号	1月25日
	サンケイリビング シティリビング横浜版	2月1日
広報誌	広報横浜	1月1日
	神奈川アーツプレス	1月15日
	横浜アートナビ（広報誌）	2月号

## ウェブサイト

国内	ヨコハマ・アートナビ	海外	theApro
	ヨコハマ創造界隈		culture360.org
	Performing Arts Network Japan		National Performing Arts Network (NPN)
	フォーリン・プレスセンター		PS122.TV
	FMヨコハマ MORNING STEP ブログ		Asian Cultural Council
	ヨコハマ経済新聞		T2G (Théâtre de Gennevilliers)
	国際交流基金 Facebook ページ		KadmusArts
	ヨコハマ経済新聞 Facebook ページ		Media Ambition Tokyo
	OPEN YOKOHAMA Facebook ページ		BIOS (bio culture art)
	BankART1929BLOG		Eventful
	フランス大使館		warpweb
	ARTINFO		杭州日報 (Hangzhou Daily Press Group)
	イベント・レポート		Artists Talking
	シアターガイド		ほか
	藤原ちから Blog		
	パワナビ		
	横浜観光情報		
CoRich			
plankblank (柳沢望氏ブログ)			
カナダ大使館			
ワンダーランド			

□ 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局

事務局長：丸岡ひろみ

プログラム・オフィサー：塚口麻里子

広報：山崎奈玲子

経理：樫村千佳

新井知行、植松侑子、田野入涼子、森本裕衣、山下陽子、小川かなえパトリシア、  
中島香菜、門田美和

□ TPAM ディレクション、インターナショナル・ショーケース

制作：岡村滝尾（オカムラ & カンパニー）

制作アシスタント：大島広子、中山佐代

□ TPAM ディレクション、インターナショナル・ショーケース（KAAT 神奈川芸術劇場）

堀内真人（KAAT 神奈川芸術劇場 技術監督）

安田武司（KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課 プロダクションオフィス）

小野伸哉（KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課）

大石真一郎（KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課）

本村実（KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課）

技術コーディネート（BankART Studio NYK、ヨコハマ創造都市センター）：関口裕二  
（balance,inc. DESIGN）

会場デザイン（BankART Studio NYK）：草棚亮

翻訳：新井知行

同時通訳：イディオリンク株式会社

記録写真：前澤秀登（写真クレジットのあるもの以外全て）

記録映像：古屋和臣

ウェブデザイン：福井豊（有限会社エフ・ディ・エス）

ポスター・フライヤー・プログラムデザイン：草棚亮（株式会社ナギデザイン）

編集・発行：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局

発行日：2013年6月27日

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-2 サウスビル 3F

Tel. 03-5724-4660 | Fax. 03-5724-4661 | www.tpam.or.jp

